

気づきと筆者の考えを読み取ろう

問題 P03

本文

【本文】私は新しいものが好きで、古くなったノートや鉛筆はすぐ取り替えていた。ある日、美術室で絵を描いていると、隣の席の佐藤さんが短くなった色鉛筆を紙の筒にはめて使っていた。「まだこの色は使えるから」と佐藤さんは笑った。私には、その短い鉛筆が小さな勲章のように見えた。使った時間が長いほど、道具にはその人の工夫や思い出が重なるのかもしれない。家に帰って、引き出しの奥の欠けた消しゴムを見ると、以前なら捨てていたはずなのに、今日は少しだけ手が止まった。新しさだけを価値の基準にしていた自分の目に、別の物差しが一本増えた気がした。

①体験を確認する

問1 本文を読んで答えなさい。

筆者のものの見方が変わるきっかけになった出来事はどれですか。

ア 新しいノートを買ったこと

ウ 美術室で絵を完成させたこと

答え _____

イ 佐藤さんが短い色鉛筆を工夫して使う姿を見たこと

エ 引き出しを整理したこと

②気づきを読む

問2 本文から読み取りなさい。

筆者はもともと、古くなったノートや鉛筆をどうしていましたか。

問3 本文に即して答えなさい。

佐藤さんの色鉛筆を見て、筆者は道具についてどのようなことに気づきましたか。

③表現を読む

問4 最も適切なものを選びなさい。

「その短い鉛筆が小さな勲章のように見えた」とあります。この表現が表していることとして最も適切なものはどれですか。

ア 短い鉛筆が金色に光っていたこと

ウ 長く大切に使ってきたことに価値があると感じたこと

答え _____

イ 鉛筆が高価な品物だったこと

エ 佐藤さんが絵の大会で賞を取ったこと

問5 本文に即して答えなさい。

家に帰った筆者が、欠けた消しゴムを見て「手が止まった」のはなぜですか。

④筆者の考え

問6 最も適切なものを選びなさい。

「別の物差しが一本増えた」とは、どのような意味ですか。

ア 文房具の長さを測る道具を買った

ウ 物を捨てる回数を増やした

答え _____

イ 新しさ以外にも、物の価値を判断する基準を持つようになった

エ 佐藤さんと同じ文房具を使うようになった

問7 30字程度で答えなさい。

本文を通して、筆者の「物の価値」についての考えはどのように変わりましたか。

⑤全体をまとめる

問8 40～50字程度で答えなさい。

筆者はどのような体験から、どのような考えを持つようになりましたか。